

本実証計画の基本的視点

着眼点／課題意識

① 家庭(生活者)に注目

- 当セクターはCO₂排出量が多い上に増加傾向
- 一方で、排出源が小口分散しており削減が困難

② 社会コストを抑える

- 各家庭への個別機器導入の積み上げに依拠した低炭素化には限界
- 不必要に膨らませたシステムでは、国内外への普及可能性は限定的

③ グローバル競争を意識

- エネルギーシステム産業は社会的課題意識を背景に今後世界で巨大市場を形成
- 当分野における日本の優位性を確固たるものにする必要

取組方針／アプローチ

生活動線に沿った実証設計

- 家庭内および移動先(各種商業施設等)でのエネルギー利用を最適化
- 加えて、移動シーン(通勤・通学・外出等)をカバーする低炭素交通システムを構築

生活圏全体でのマネジメント

- 生活動線に沿った各需要家を統合したコミュニティ全体単位でのエネルギー利用最適化を模索

生活者の行動変革を支援

- 無理なく生活者に低炭素行動を提案し、満足度と低コストを実現する低炭素社会システムを構築

オープンな実証体制を整備

- 日本を代表する有力企業群が協調・切磋琢磨

グローバル展開性を担保

- 国内では必要性が希薄でも、グローバルで重要な技術の実証・課題抽出に積極トライ
- 国内外の関連機関と連携した標準化検討